

つながる☆ひろがる



幼保小連携通信

発行:札幌市教育委員会 幼児教育センター担当課

令和5年6月

テーマ

学びをつなぐ幼保小連携・接続

～幼児期の教育と児童期の教育の理解を深める～

第1回

知る

第2回

学ぶ

第3回

支援を
つなぐ

【区幼保小連携推進協議会の取組】

札幌市の「区幼保小連携推進協議会」は、10区共通の内容で「学びをつなぐ幼保小連携・接続」のための取組をしています。

ちなみに
国の動向は…

学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について「幼保小の協働による架け橋期の教育の充実」を推進する一幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会（中教審初等中等教育分科会）より

5月31日に「第1回幼保小連携推進協議会」を開催しました

講演会

学びをつなぐ幼保小連携・接続

講師:東海大学 准教授 寶来 生志子 氏(元横浜市立恩田小学校長)

◆幼児期から引き継いだ「学びに向かう力」を育もう！

キーワード 1 考えないスイッチを入れない

指示やルールをただ受け止めるのではなく、なぜ必要か(ダメなのか)自分で考え、表せる機会を。

キーワード 2 子どもの「わくわく」を奪わない

子ども自身が興味・関心をもっているとき、その子のもっている最大限の力が発揮される。

キーワード 3 子どもにきく(聞・聴)

「どうしたら良いと思う?」「園ではどうしていたの?」学級は子どもと一緒につくっていく。

キーワード 4 手応え感覚を得られるように

価値ある体験から得る、達成感、自己有能感、一体感、充実感が次への行動の意欲へ。→**学びに向かう力**

◆スタートカリキュラムを知ろう！

学校にとってスタートカリキュラムは

- ・学校経営の柱の一つ
- ・「対応」ではなく「未然に防ぐ」という考え方
- ・「困った子」ではなく「困っている子」という捉え方
- ・学習する子どもの視点に立つ教育活動への転換
- ・教科の学習自体を見直す
- ・スタートカリキュラムの考え方は、**学校教育の今後変わっていく姿**

【講師配布資料より抜粋】

恩田小学校の生活科「がっこうたんけん」の授業実践動画を視聴しました。

参加した先生方からは、自園・自校における実践のヒントや具体的実践を行う難しさなど、様々な意見がありました。

→ブロック研修へ

※各区の報告をもとに編集しています。

詳細は今後各区が発行する「幼保小連携だより」をご覧ください。

ブロック研修

講演を聴いて意見交流をしよう

＊ブロック：中学校区または小学校区をもとに、幼保小のグループを編成

10の姿を手掛かりに

4・5月の1年生が学習に取り組む動画を観て、参加した先生方は生き生きと自分の考えを発表し、学習の中で生まれた疑問や困りに対してじっくり考え、より良い答えや方法を見つけようとしている1年生の姿が「言葉による伝え合い」「思考力の芽生え」などの幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）と重なっていることを見つけていました。



互いの教育を見通す

年長児の後半の生活は「自分の思いや考えを友達や先生に伝え合いながら遊ぶ」「イメージを実現するために試行錯誤しながら遊ぶ」ことなどをねらいとして環境を構成し、保育者が直接的あるいは間接的に援助しながら、10の姿が表れるように保育をしています。このことから、「幼児期から学びがつながっている!」と改めて感じることができたようです。



動画と同じ授業は難しいな…

でも、大事なのは、動画と同じ授業をすることではありません。自校の子どもの実態に応じながら、講師からお話のあった「考えないスイッチを入れない」「子どものわくわくを奪わない」「子どもにきく」「手応え感覚を得られる」ことは何かを考えることです。そのためのとおきの方法があります。



園ではこういう時、どうやって子どもに指導するの？

と、幼児教育施設を見たり、先生方に聞いたりすることです。保育室の環境づくり、子どもへの言葉かけ、園で楽しんでいた遊び…ヒントはたくさんあります。編成しているブロック内の先生方同士が保育や授業を見合い、学び合いの機会をもてると、もっともっと互いを知り合うことができるのではないのでしょうか。

幼保小連携推進協議会classroomに
当日の資料等が掲載されています。

- ① スライド資料
- ② スタートカリキュラムをデザインしよう
- ③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

クラスコード **xyevaut**

＊6月末で削除します



ご質問、ご感想等は幼児教育センター担当課までお願いします。 TEL671-3220